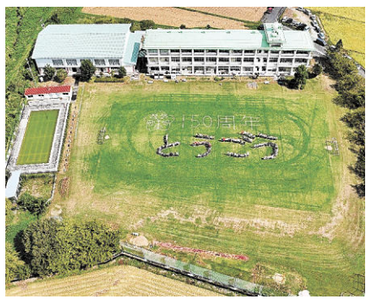

東郷（とうごう）小

【学校名】　鳥取市立東郷小学校
【所在地】　鳥取市篠坂６番地１
【校長名】　池本　久美
【児童数】　29人

【学校教育目標】　思い合い　かかわり合いながら　目標に向かい　自分色の輝きで　時代を生きる東郷っ子の育成
「ひらく」「つくる」「かかわる」

【沿　革】

明治６年９月	中村に中村小学校を置き、本高と高路に支校併設（創立）
大正８年10月	東郷尋常小学校設置
昭和28年７月	鳥取市立東郷小学校と改称
37年10月	校歌制定
49年12月	創立100周年記念式典挙行
60年３月	現在地に新校舎および体育館完成
平成17年４月	小規模校転入制度開始
20年９月	生涯フェスティバル参加　手踊り・銭太鼓発表
26年８月	創立140周年誕生祭
29年４月	シンガポール旅行団との交流開始
６月	校庭芝生化
８月	小さな音楽会コンクール本選出場（東京）
令和５年１月	とっとりＳＤＧｓアワード準グランプリ
６年９月	創立150周年 誕生祭

小規模転入制度により、校区外から11人通学しています。活動の様子は学校ホームページでも紹介しています。

5・6年生が作った新聞です

150周年誕生祭

多彩な企画、盛大に

２０２４年９月15日、東郷小で創立１５０周年誕生祭が開催され、児童や保護者、地域、学校関係者など約１４０人が参加した。

午前中は、各教室でさまざまな企画を実施。「あべこべ教室」では、大人が児童役、児童が先生役となって、「オトナの知らないコドモの事情」という授業を行った。児童は「授業案を何度も考え準備した。とても緊張したが、大人にも子どもの気持ちを理解してもらえたと思う」と語った。

また、５、６年生は「Ｓｍｉｌｅ ＵＰ　カフェ」、３、４年生は「東郷なつかし喫茶」、１、２年生は「昔遊びコーナー」を担当。手作りのおかしを販売した６年生は、「お客さまに、『このおかし、すごくおいしいよ』と言われたのがとてもうれしく、さらに張り切って接客した」と話した。

午後からは、児童が楽しみにしていた「学校かくれんぼ」を開催。テレビ番組のかくれんぼ企画への出演を望む児童のために、１５０周年事業実行委員会が応募したが当選しなかったため、児童の夢をかなえようと実行委や保護者、同小卒業生などが準備した。子どもたちからは「校舎を走り回って、隠れている人を見つけたときはうれしかった」「たくさんの方の協力のおかげで夢が実現し、全校が楽しめた」などの声が聞かれた。

最後は、実行委会長の角田恭成さん、代表児童、池本久美校長が、小学校の１５０歳を祝うケーキ入刀を行い、６年生がくす玉を割った。角田さんは「僕が子どものころは、児童が81人だったが、今は29人になってしまった。しかし一人一人の力は年々大きくなっていると感じる。誕生祭は児童の力が１００％発揮され、大成功を収めた。東郷地区の皆さんが、地域を大切に思う気持ちも伝わりうれしかった」と話した。

児童が先生になって授業する「あべこべ教室」

たくさんの来場でにぎわったカフェ

創立１５０周年誕生祭でケーキ入刀

学校かくれんぼを楽しむ子どもたち

地域思う気持ち伝える

東郷小では、全校でトーンチャイムの演奏や器楽合奏をする「音楽プロジェクト」に取り組んでいる。練習は、毎週金曜日の「プロジェクトタイム」で行い、学習発表会や「ＫＡＮＡＤＥコンサート」での演奏に向け、一丸となってがんばっている。

同プロジェクトのねらいを音楽主任の徳長先生に聞くと、「全校が一つの目標に向かって取り組むことを経験してほしい」と話した。上学年が、下学年に優しく教えたり、わからないところを友達同士で教え合ったりしている。

１年生は「６年生に教えてもらったことができると、とてもうれしい。来年は、新１年生に教えてあげたい」と話し、上学年児童からは「自分が教えたことを下学年ができるようになるとうれしい。教えたかいがあった」「友達と息を合わせて演奏するのが楽しい」などの声が聞かれた。

みんなで教え合い励まし合うことで、年々演奏が上達し、一つの目標に向かって練習することで、全校児童の仲が深まっている。

一つの目標に向かって

1年間ずっとお祝い

１５０周年の記念事業は、小学校関係者や東郷地区の協力を得ながら１年間にわたって行われた。

２０２４年７月20日には、山陰海岸ジオパークエリア内にある大羽尾海岸で「目指せ１５０匹！地引網大作戦」を実施。早朝６時に砂浜に集合し、二つの地引き網でエイやカワハギなどさまざまな種類の魚を採ることができた。参加した４年生は、「太くて重い網を引くのは大変だったけれど、みんなで声をかけ合いたくさん採れてうれしかった」と話した。

魚は東郷地区公民館で調理師さんの指導の下、児童が三枚おろしに挑戦し、オアシス東郷のみなさんと一緒に調理した。揚げたての天ぷらや唐揚げを食べた子どもたちは「魚はカリカリしてジューシーでとてもおいしい」と喜んだ。

他にも「東郷地区縦断駅伝」「サップ体験」「目指せ１５０回！ソフトボール大会」「チャレンジウォーク」「もちつき大会」の計六つの記念事業が行われ、全てに参加した６年生は、「小学校生活で最高の思い出。企画・運営してくださった多くの方のおかげで、楽しむことができた」「６年生のときに、東郷小学校が１５０周年になって本当にうれしい」と話した。

魚がたくさん採れた地引き網体験

地引き網体験など六つの記念事業

地域とふれあい学ぶ

サツマイモ作りや麒麟獅子舞

伝統芸能の手踊り、銭太鼓をはじめ、地域の方とふれあいながら学ぶ機会が多い東郷小。取り組みの一部を紹介する。

2024年５月。全校児童が赤、黄、青の３組に分かれて、サツマイモの苗を植えた。地域のむつみ会のみなさんが、丁寧に植え方を指導し、上学年が下学年をサポートして協力。児童は暑い夏も水やりに励み、10月には、地域の方と一緒に収穫した。６年生は「全校児童で家庭科室いっぱいのイモを分けて持ち帰った。おいしかった」と話していた。

３、４年生は、総合的な学習の時間に東郷地区むらづくり協議会文化伝承部長の木下さんから、麒麟獅子舞について学んだ。麒麟獅子舞は国の重要無形民俗文化財に指定されており、同地区にも四体現存し獅子ごとに顔や舞がそれぞれ違うこと、麒麟が「幸せを運ぶ思いやりのある動物」であることを学び、舞の実演もあった。30年踊り続けている木下さんは「東郷地区の方が長い間大切に守ってきた麒麟獅子舞を、次世代の子どもたちに伝え、残していきたい」と力を込めた。

３、４年生は、11月16日に行われた「東郷フェスタ」で、麒麟獅子舞や東郷地区の民話「おとん女郎狐」を取り入れた劇を披露し、学んだことを保護者や地域の方に伝えた。

地域の人と一緒にイモ掘り

東郷フェスタで麒麟獅子舞を披露

魅力あふれる取り組み

全校一丸で音楽プロジェクト

練習の成果発揮

「ＫＡＮＡＤＥコンサート」で披露

２０２４年12月14日、わらべ館イベントホールで「ＫＡＮＡＤＥコンサート」を開催した。毎年12月に行う、鳥取市でもめずらしい東郷小単独のコンサートで、今年で９回目。各学年の演奏や全校でのトーンチャイム演奏「アイノカタチ」と「アンパンマンマーチ」、器楽合奏「エル・クンバンチェロ」を披露し、約90人が来場した。

今回は創立１５０周年記念で、ＰＴＡ有志による「美女と野獣」の合奏も実施。会場の皆さんにもトーンチャイムの体験で「きらきら星」を演奏してもらった。児童らは「多くの方に演奏を聴いてもらえ、うれしかった」と話し、保護者は「１年間の集大成であり、一番手ごたえのある演奏。全学年が協力する姿を見て感動した」と笑顔を見せた。

美しい音色を響かせる子どもたち

学年越えて仲深める

放課後子ども教室

子ども教室で過ごす児童たち

東郷小児童は、放課後に「東郷地区放課後子ども教室」で過ごしている。コーディネーターの加藤先生は、「異学年で活動する時間を設け、団結力と仲を深めている。上学年は下学年に教えることを通して思いやりや自信がつき、下学年もいろいろなことができるようになる」と話す。

きまりを守ることも大切にしており、東郷の子どもたちは、細かい一つ一つのことが守れ、みんなが安心して過ごせているそうだ。

子どもたちは「１～６年生までみんなが仲良く、いっしょに遊んだり学べたりして楽しい」「先生たちがとても優しく、わからない勉強も丁寧に教えてくれる」と話し、保護者も「安心して預けることができる」「宿題などの学習支援が手厚く、とてもありがたい」と信頼を寄せている。

シンガポールと友好の架け橋

国際交流で異文化感じて

東郷小では年に数回外国のお客さまを招き、コミュニケーションや外国文化に触れる学習を行う。毎年10月の「東郷英語村」はハロウィーンバージョンで、皆が思い思いの仮装をして盛り上がる楽しい行事だ。

シンガポールの人と交流を楽しむ児童

また、シンガポール旅行団との交流も2017年から続いている。これは当時、鳥取県庁国際交流課に同旅行団から「鳥取の小学校と交流したい」との話があり、東郷小に交流先が決まったことがきっかけ。旅行会社「フォローミー・ジャパン」のベン社長が、小さな学校で頑張る児童の心の温かさやきまりのよさに感動し、「交流をシンガポールと日本の架け橋にしたい」と、今でも続いている。

本年度は６月７日に旅行客とスタッフの計13人が本校を訪れた。交流会では、東郷地区大運動会で毎年披露する「東郷ソーラン」を元気よく踊ってお迎えし、旅行団や地区の皆さん、保護者も一緒に、本校自慢のトーンチャイム演奏やちまきづくり、書道などの日本文化を体験して楽しんだ。

シンガポール旅行団と記念撮影

５・６年生は「初めて出会う人と英語でつながることができた」「シンガポールの人と話して、文化の違いも分かった」と話した。

池本校長は「故ベン社長が引き継いでくださった東郷小学校への思いをこれからも大切にし、みんなで協力して温かい学校をつくっていきましょう。国際交流を通して、人とつながる楽しさや違いを受け入れる心を学んでほしい」と話した。